

事務局（白川）	続いて、副会長に立候補される方はいるか。 （なし） それでは副会長については会長の指名でよろしいか。
各委員	（了承）
岡本会長	前回お願いした真鍋委員にお願いしたい。
事務局（白川）	真鍋委員ご指名だが、よろしいか。
真鍋委員	（了承）
事務局（白川）	今日の会の成立状況について、委員17人中11人が出席で過半数出席なので、この会が成立していることを報告する。 ここから先の進行は会長にお願いする。
岡本会長	今回初めての委員もいるが、前回の反省も込め、会長の話が長すぎないように抑えたいと思う。2年間、審議会の進行への協力をよろしく願います。 では副会長からあいさつをお願いします。
真鍋副会長	前回までは第2次の男女共同参画プランの進行管理に力を注いできた。そうした中、審議会の皆さんの努力と男女共同参画室の積極的な取り組みにより少しずつではあるが、成果も上がってきている。また市役所の皆さんの意識改革も進んできたと思う。今後は、もっと全体感をもった、市民と諸団体を巻き込んだような議論が必要でないかと感じている。進行管理が審議会の最も大きな役割だが、せっかくそれぞれ専門の分野を代表される皆さんが集まられているので、専門分野や現場からの声をお聞かせいただき、計画に織り込んでプランの質の向上に資するよう進めていければと考える。
議事	
岡本会長	今回は、委員改選後初めての会なので、丸亀市がどのように男女共同参画に取り組んでいるのかとプランの進行管理表の説明をお願いします。議事の1と2をまとめて事務局に説明をお願いします。
事務局（長樂）	資料確認。 資料1 関係例規説明。 資料2 「男女共同参画行政の概要」説明。
事務局（白川）	「第2次男女共同参画プランまるがめ」説明。 数値目標の変更報告。 本編16ページ、事業番号【4】。男女共同参画推進のための事業団体数の目標数値を25から44に、前回の審議会の意見を取り入れ変更している。 事業番号【8】。教育・保育関係者の男女共同参画に関する研修会への参加者数の目標数値を370から154に。現状数値の339が27になる。男女共同参画に関する講演会に絞って見直した。 36ページ、事業番号【35】。市役所男性職員の育児休業取得率の目標数値を1%から5%に変更。まずは1人の取得を目標にしている。 事業番号【40】。(3)休日保育の目標数値を、2から1へ、(4)0歳児保育の12を13へ変更。 事業番号【57】。消費者モニター制度が廃止となったので、これについては削除する。 60ページ、事業番号【81】。防犯灯の設置数の目標数値を200から416に変更。 資料7 事業別担当表説明。 資料4 平成25年度中間報告説明。 資料3 審議会等への女性の参画状況調べ説明。 女性のいない審議会は2つまで減っている。委員総数610人の内女性が211名いる。女性のいない審議会の4つ（選挙管理委員会、農業委員会、公務災害補償等認定委員会、景観審査会）に女性が登用された。
岡本会長	丸亀市の男女共同参画がプランに沿って進められているということが非常によくわかったと思う。説明いただいた中で質問、意見があるか。
大西委員	資料7の白丸と黒丸の説明をしてくれたが、矢印がたくさん入っているのを説明して欲しい。
事務局（白川）	この後、協議していただく予定であった。例えば、このプランの中のある項目を実施し、その課は翌年度も続けて実施する予定だが、全く同じような内容となる場合、翌年度も実績、コメントとも同じようになる。そういう場合には継続事業として矢印で管理してもいいのではないかと、との提案である。以前、○印でずっと実施してもいいのではという意見もあったが、実際にこのプランの中のすべての事業をすべての課が実施すると管理する数が今の倍近くになる可能性がある。そこで矢印で管理することを検討していただきたい。今回、矢印は22ある。
岡本会長	矢印の事業は中間報告資料の中に入っていないということ。22ということは資料がもう10枚くらい増えることになる。 他に資料説明の中で質問等はあるか。

近石委員	まず男女共同参画行政の概要2ページの職員数だが、これは男女共同参画行政に関わる職員数で山田部長、白川室長、長樂さんのことか。
事務局（白川）	実質、室の室長と担当の2人体制である。
岡本会長	他に何かあるか。
真鍋副会長	実績報告の中で、8月31日までの実績が実績になっていないものがある。日程が決まっている予定というものもあれば、そうでない予定が入っているものもある。
事務局（白川）	予定の中には実施していないが、準備は始めている、〇〇講演会を開く、日程も決まっているけれども実施には到っていないものがある。それを、実績報告欄に記載している。
岡本会長	25年度に実施して黒丸になっている事業は実績として書くのはそうかと思う。でも白丸はまだやってないですね。
事務局（白川）	はい。
岡本会長	実施していない事業に実績報告があるのはおかしい。これは何か理由があるのか。
事務局（白川）	実施予定の内容がわかるものは、調べてすべて記載してある。
岡本会長	黒丸については、計画を立て、実施したものだから、実施計画と実績が記載される。白丸については、計画はしているがまだ実施はしていないから、実績がないのが普通ではないか。これは25年度の間接報告か。
事務局（長樂）	聞き取りした中でわかった範囲の情報を提供しようという主旨で記載している。
事務局（白川）	計画どおり実施するか確認をし、やるという事業については予定で参考として記載した。括弧書きにしても良かったと思う。
日高委員	その方が判りやすい。
山田部長	実施計画の下に書くのはどうか。
岡本会長	実施計画だけでいいと思う。誰がみてもわかるように、予定と実績は分けて考えた方がいい。やると言うのは実績ではない。もしかしたらやらないかもしれないので。
山田部長	お知らせしたいという意図だったが、書く欄が不適切であった。
日高委員	計画の中に情報提供として入れるのがいいのではないか。
岡本会長	何か予定があればそれはあくまで計画なので、計画の場所に書かないといけない。その辺りはきちんと分けるべきである。ほかに質問等はないか。
近石委員	審議会の委員登用の資料3で、女性のいない審議会は平成24年の4月1日で16.7%だったけど、3.8%までかなりがんばっている。女性委員の比率も34.6%で数としては非常に目覚ましいところではある。市役所ががんばれば何とかなるといってところではある。他に資料5の中で市役所ががんばっておけばこの数字は審議会等への女性の参画状況と同じように上がったかも知れないというものはあるか。例えば女性の管理職比率とか。平成22年の現状が9.1%で平成23年度が12%。最終目標28年に20%というのはいかに考えるか。
岡本会長	これは部長にお答えいただきたい。
山田部長	急速には、中々難しいところがある。職員構成等の問題もあり、急に管理職ではなく、できるだけ研修をしてステップアップしてもらおうと考えている。候補者は多いけれども、これからの大きな課題として考えているので、出来る限り女性の管理職を増やしていこうという方向性はある。職員課で今度人材育成方針を見直しするが、その辺りを取り入れていこうと決めているので、もう少し待つてほしい。
近石委員	おっしゃることはよく分かる。目標があっても、この層の人が次の層にならないと、その次の層にはなれないという形があると思うけれども、目標20%というのは今の見通しはどうか。
岡本会長	管理職とは副課長以上だけれども、担当長あたりが増えないと課長は増えない。今、劇的に大きく変わっているのが、20年くらい前は担当長とか副課長とかは来年度定年という女性になっていた。人数は今と変わっていない。ただ今は、その担当長辺りのポジションの女性たちは3、40代くらいだと思う。
山田部長	40代あたりである。
岡本会長	要するに男性と同じ年代で担当長になり、副課長になっているのが劇的に変わっている。それは確かですね。

山田部長	そうです。ですからその担当長が増えれば、後何年かすれば副課長が増えてくる。人事管理の基本方針の中にも男女共同参画を進めていくと入っているので計画通りやっていると決めている。審議会委員の女性登用のように急には難しい。
近石委員	それは分かる。ではこの20%という目標は、その結果としてはどうなるか。達成するのか。
近石委員	28年までに20%にするんですよね。
山田部長	28年まで3年しかない。
近石委員	それはそうだけどそれを聞いている。
山田部長	今の状況が大体11.1%ちょっと。倍にならないといけない。確かにある程度の時期がきたら倍にはなると思う。
岡本会長	いえ、目標値は20%。20%にするんですよね。
山田部長	それを目標に進める。
岡本会長	職員の女性比率目標数値のために努力するのは市役所。市民ではない。目標達成は担当部長次第ではないか。市長は先ほどの挨拶で、すると仰った。
山田部長	そういう目標に向かって努力する。
岡本会長	20%は達成できないかもしれないではなくて、20%に向かってがんばるんだと。
山田部長	20%に向かってがんばる。
近石委員	確かにステップを踏まないと中々上に上がれないというのがあるかもしれないけれど、市役所の女性は優秀な人が多いから役につけばこなせる。そこを考えてもらいたい。
山田部長	人事は能力と適正に応じてやるのが基本。女性管理職の登用を目標にすることはいいことだが、基本的な人事の考え方に合わせて配置や昇格をするということになる。その基本線は守られているところであり実態でもあると思う。だから上がったったり下がったりすることもあるし、そこは理解していただきたい。
日高委員	今回実績を見て庁内の職員に対する研修であるとか、啓発を努力していることがよく分かった。それはとても大事で、女性職員も最初に入った時そういう意識がなかった方がたくさんいたと思う、時代的に。だけど実際はそうではないのが今の時代だから、そこを早く察知した人や気持ちが最初のままの人もいる中で、できる限りの意識づけをしてほしい。同じ土俵で先ほど部長が言ったように適正と能力を持ってステップアップしていかないと、あなたやりなさいと言われただけでは、潰れていくこともある。そこは、これは業務であるという意識づけをしかりされた方がいいと思う。
岡本会長	現場で管理職をしてきた女性として、今の日高委員の言葉は重いと思う。
日高委員	私は「仕事だから、給料は同じだから」と、若い女性職員には言ってきたつもりである。同じ給料もらっているから、その給料分だけは最低働いてというのはずっと言い続けてきたこと。プロ意識を植え付けて欲しい。育ててあげて欲しい。そういう環境がまだまだ整備されていないと感じているのでよろしくお願ひしたい。
中橋委員	どうしてもチェックしやすいので市役所内の話からとなっている。最終的な目標は男女共同参画、暮らしやすいまちづくりである。丸亀市の大半の方は中小企業の方だと思うので、最終ゴールは、庁内がこんなふうに変ったので、企業さんもどうですかと持っていくかといけない。あるいは庁内の女性がキャリアアップしていくことで、こんなふうには私はプラスになった。生活スタイルもこんなふうにはプラスになったということをどんどん外へ発信し、庁外の女性も元気にならないとまちが元気にならない。庁内が良くなったで終わりではなく、そこから先のことを見ながら目標をどこに設定するかである。市全体の割合を増やすために庁内ががんばっているということに意識をおき、注目されるこの数値だけ一生懸命上げようとならないようにしてほしい。
近石委員	手段であって、目標ではない。
中橋委員	そうです。がんばってキャリアアップしたことで辛い辛いとか、私は何かをあきらめたとかというものが前面に出たり、私はおばあちゃんのサポートがあったからできたみたいなことだと、他の民間企業の人たちにはやっぱり役所の人は特殊だと見られてしまい、まちの人たちに反映されないこともあるので、そこをキャリアを積んだ人たちは意識して発信しないといけないと感じる。
塚本委員	色んな課に色んな事業があるが、これは各課が設定した事業目標か。初歩的なことだが教えて欲しい。
事務局（白川）	一応各課に確認はとってある。

塚本委員	<p>こういうのをやりたいというのをを出してきて集約したのがこの実績報告になっているという認識でよいか。こういう会に参加するのは初めてなので審議会の立ち位置というのをわかりやすく教えていただきたい。何をやる場所なのかということも初歩的だが教えてほしい。</p>
事務局（白川）	<p>資料については、そのとおりである。 審議会については、この進行管理も一つの仕事だし、計画等の諮問を受けてそれに対する答申もする。プランや政策決定のために意見をもらう場でもある。他の審議会では進行管理をしていないところもある。審議会の中でテーマを決めて研究をして、意見を市長に提言するところもある。現実、附属機関は市長から意見を聞かれることが一番多いと思う。</p>
中橋委員	<p>つまり委員会よりも格式が高いのだが、この男女共同参画審議会は結構フランクな会である。</p>
倉敷委員	<p>何回もこの審議会に参加しているが、今まで審議会でやってきたのはプランの策定と進行管理であったと思う。先ほど副会長が言ったようにこれだけ専門性、それぞれを代表する立場を持った方々が集まっているので、そこをもっと生かしたほうがいいと思う。ずっとこの審議会の委員としていながら、丸亀独自の問題が何なのかという所まで見えてこない。内閣府から来たものへの1つ1つの対応とか男女共同参画とはこういうものだからそこに近づきましょう、というのはわかるけれども、この地域で何が問題なんだろうとか、それぞれの分野で皆さん、PTAとかで子育て、介護の面で何が問題になっているのか。一般論でしか見えてこない。できればここで大きな問題について語れる場を作ってもらえればありがたい。</p>
岡本会長	<p>これまでの意見を聞いて、このプランの中に頭を突っ込んだような審議をするのではなく、ここに集まっている子育て関連のNPOさんとか地域で活動している方、専門性を持った方と、丸亀市が男女共同参画社会になるための阻害要因を見つけたり、もっとこうした方がいいのではないか、これは丸亀市にこのように役にたつのではないかというような話をしていくような会にしてもいいかと思った。先ほど室長が言ったように資料にかなりの量があるので、1つ1つのことについて言っていくと時間もなし、進行管理の中でどうしても今回このことに関しては皆さんと一緒に話し合いたいという問題がないのであれば、そういうことに対して意見を出し合うような会になっていってもいいと感じた。来年度26年度は次のプランのアンケートをとる。次のアンケートが丸亀市独自のものになるのか話し合う機会が出来た方がいいのではないかと。それぞれ専門の立場やご自身が携わる活動の中での男女共同参画という課題を少しずつ皆さんに持ち寄ってもらくと、このプランの中のこのページの部分だとなるかもしれないし、それはこのプランの中にはないとなれば丸亀市の課題であるし、そこを何とかしないと丸亀市の男女共同参画が進まないという所に結び付いたらいいと思うが、どうか。先ほど審議会委員として何をすればいいのかという質問があったが、今、具体的な諮問がないのでプランの進行管理をしている。プランについては目を通しているが、進行管理は室の方で各担当の方にちゃんと仕事をやらせてもらっている。それぞれの課で温度差はあるけれども、それについて担当課の方できちんと進行管理してもらい、問題があれば私たちも指摘する。ファミリーサポートセンターも中橋委員からの情報で取り組むようになった事業の一つであり、この審議会の中でそういういい情報を市役所に提供できたらプランが進む。男女共同参画への意識を変えようということでは、企業の立場からは商工会議所。働く場での男女共同参画や子育て支援、育メンなんていうのはちょっと前にはなかった感覚だから、お父さんが子育てに携わって仲間で子育てをする、というように地域の中でやってきた中でここが男女共同参画になっていけば。例えばPTAの組織が男女共同参画になれば、教育をしていく子ども達、学校にも影響があるし、そういうところにも力を結集して、ここに集った委員がそれぞれの場で男女共同参画を進められるようなアイデアを出し合える話し合いをしていきたいと思う。私も進行管理に1つ1つ目を通して、打ち合わせの時にこの課のこの事業はどうかということも伝えるし、皆さんも気がついたことがあれば男女共同参画室の方に言ってもらいたい。</p> <p>メールや文書でなくても電話や立ち寄ってもいい。そういうふうな形にして、次のプランに繋がるようないいアイデアを私たちの方から出す。丸亀市民でない方もいるので、市外から見ると見え方も違うのかと思う。次の会ではそういう方からの意見ももらいながら進めていきたいと思う。次回はいつ頃を予定しているか。</p>
事務局（白川）	<p>7月の予定である。</p>
岡本会長	<p>3月に25年度の報告と26年度の計画が一緒に出るので、その時までには26年度の計画として取り組んでいったらいいのではないかとということがあったら室へ連絡を。そのほかに意見はあるか。</p>

中橋委員	私は子育て支援をしており、少子化対策のトレンドは婚活です。近隣では、宇多津町が民間レベルで婚活イベントをしている。子育て支援ということで男女共同参画プランにも色んな項目が入っている。女性の結婚年齢が30歳を超え、高校卒業してからでも10年以上社会人で独身という時代。そこへのアプローチが抜けているという気がする。そこで、婚活のイベントなどに出て行って、結婚したら男性もこうだよ、女性もこうだよということをゲームを通して伝えとか、啓発チラシを配るなど、タイミングを見て取り組むということをして見たらどうか。あまり他自治体ではやっていないので、例えば丸亀でやって手ごたえを感じてみるというのもおもしろいと思う。今回の委員は、子育てにウエイトがある委員が多いと感じるが、今、目の前にくるのは介護の問題だと思う。初婚年齢が上がってきて、出産年齢も上がってきている。この香川県でも、子育てと介護両方に板ばさみになるケースが5年、10年先にはたくさん出てくるだろう。それは女性の問題ではなくて、自分のそれぞれの親を自分で介護しないといけなくなってくるので、そこに向けて5年後10年後、介護で職場をやめないといけないとか自分がやりたいことをあきらめて介護に向きあわないといけないというような形が出てきた時に、それをどうケアするのかサポートするのかということも男女共同参画の中で今の内から練っておくと進んでいくと思う。
岡本会長	今、一番の大きな問題は丸亀だけではない。少子化高齢化への対策は、どこでも行き詰っている。
中橋委員	丸亀も、都会と比べると近くに介護者がいる場合が多い。自分で介護しようとがんばった上での高齢者虐待というの多いかもしれない。そういう相談やケアの対策を先に打っておくとよいと思う。また、DV相談でいうと、電話受付が8時半から5時半でいいのかと思う。仕事をしているとかけにくい時間帯である。介護の相談もそうだと思う。介護に疲れて手をあげてしまうという相談も窓口を作らないといけない。その時にどういう窓口が使いやすいかも含めて県内で率先して取り組むと、非常に開かれている、やっぱり違うなとなるのかと思う。でも何回も言うが丸亀市は結構進んでいると思っている。
岡本会長	成人の日に集まった新成人たちには色んなものを配布している。情報紙やデートDVの冊子など。ただ大学生が多いので婚活にはなじまないだろう。
近石委員	婚活とは例えば結婚相談所を設けるとか、そういうことか。
中橋委員	今までの話は民間ベースの話である。香川県も婚活に予算をつけているし、少子化対策の森大臣も3つの矢の1つは婚活だと言っているくらい婚活に行政が動き出しているけれども、丸亀市でも婚活をして欲しいといっているわけではなく、民間ベースでやっている婚活の行事に入り込んでこのチラシを配ってくださいとか、こういうゲームをしてくださいといったアプローチがあればおもしろいのではないかと個人的な意見を述べた。 これから結婚する人たちが婚活支援の事業に関わることがあるけれども、女性は辞めたい、専業主婦になりたいという人の割合が増えている。でも長いライフプランを立てた時に、自分の進みたい道、もし離婚したくなかった時にお金がないと離婚もできない。人生の大きな転換期、タイミングを迎えようとしている人たちが男女共同参画のヒント、知識を身につけることはすごく大事だと思う。丸亀市はこれだけ頑張っているということをどんどんPRしたらどうか。結婚して住むんだったら丸亀市だと思わせることが大事だと思う。庁内が幸せになることが目的ではないはずである。
日高委員	そういうことではなく、「まず市役所から」ということがこのプランの1つのテーマだからそういう話になっただけである。
中橋委員	私もずっと関わっているのでそれはわかっているけれど、その話に終始してしまいがちなので、いろいろ取り組まれていることをどうやってPRしていくかという議論にもシフトしていかないといけないと思う。
岡本会長	今、子育てと介護のところで男女共同参画はものすごく関わっていることだし、ワーク・ライフ・バランスのワークのところでは何か課題とか、今自分の会社でこんなこと取り組んでいるとか商工会議所ではこうなっているとかはないか。丸亀市で働くということでは何か課題はないか。
杉尾委員	皆さんが言っていることは本当にごもつとも広い問題。現実、倉敷委員が言ったように丸亀ならではの面白いものでその審議会の役割もあるので、行程表を作っていくというのも大事なことで、現実の問題として中橋委員が言ったように、その中で何か1つでも行政施策に反映していけるようなものでないといけない。 商工会議所や商店街とかのこれはという目玉の政策については、私は恥ずかしながら思い浮かばないのだが、真鍋委員はいかがか。

真鍋副会長	日本全体的話だが中小企業の方に何を持って男女共同参画を訴えていくか非常に難しい。
杉尾委員	結局は意識改革。そのためにどうしたらいいか。ただ単に教育してこのように言ったら変わるかといえば、変わらないと思う。結婚の問題もこれだけ非正規が増え、男の人でも結婚したくてもできないとよく聞く。そういうことも何か1つ1つ行政施策に反映するしかないかなと思う。
岡本会長	99%の中小企業の中で男女共同参画、企業の意識改革というのは何をどこにアプローチしたら意識改革になるのか。経営者に対してか。
杉尾委員	やはり経営者だと思う。語弊があるかもしれないが、民間は利益を上げてこそその世界だから、女性の活用・参画によってもっと企業に利するということがあればすると思う。
岡本会長	それこそ真鍋委員の会社はその取組みが結構早かった。
真鍋副会長	希望者が将来会社に復帰できる登録制度を入れた。
岡本会長	なぜそういうことを進めたのか、会社として取り組んだヒントが欲しい。どういう形で会社が回ったのか。また、教育界、学校には男女共同参画があまり進んでいないというのが私のイメージ。女性の先生も男性の先生も同じように働いているかもしれないけれども、管理職の比率が校長、教頭は出ているけれども、教育委員会の女性の数が少ないとか、教育会の男女共同参画ってどうなっているのか実際に見えにくい。そういう中で丸亀市の学校教育の中でどういうことをしていけば男女共同参画の教育が進むのだろうか。実は教育委員会はあまり進んでいない。先生たちも研修しているだけであまり積極的には取り組んでいない感じがする。男女共同参画を進めるのはどうすればいいのか。大学とかは例えば男女共同参画の指針とかはあるのか。
倉敷委員	私の大学では職員に対しての取組みは早かったと思うけれども、私たち教員を男女同数にしようとかというのは専門性という言葉によって全て無化されてしまう。例えば理科系の学校とかにはほとんど女性がいない。専門性の問題ではなくて啓発の問題だと私は思う。とはいえ教育界というのはある意味女性が楽をさせてもらっている分野だと思う。やはり現場の24時間戦えるかということが常識になっている世界では女性は大変だと思う。これで子育てまでする・しないというのは本当に何かを捨てなければやっていけないのが現状で、先ほど言っていたワーク・ライフ・バランスの中小企業ならではの問題というのは、ここでぜひ何かアピールできたらと思う。女子学生は結婚したら専業主婦になるのが理想であって、その理想はあながち否定できない。これだけの社会の中で子育てしていくのはよほど大変なことだと思う。今の丸亀の問題としてワーク・ライフ・バランスを同居率などからはじき出し、どういうプランを立てられるのかということが大きなポイントではないかと思う。それによって婚活とかも変わっていくのではないか。
岡本会長	ワーク・ライフ・バランスをどのように丸亀で仕事をする人たちに広めていくか、子育てや結婚しようと思えるまちにするか、介護をする時になっても介護をされる時になっても、このまちなら大丈夫というまちづくりに繋がっていくような視点が大切である。
塚本委員	現に僕たち父親たちが集まって、子どもと一緒に遊ぶという活動をやっているけれど、その中でワーク・ライフ・バランスのことを言えば、中小零細の社長も多い。その社員は5名から多いところで200名くらいいる企業がある。そういった社長はうまく言ってくれている。早く帰ろう。これもすごく大事な事だと思っている。あとは管理職の方も結構いる。課長とか役職を持った方が結構いるので、そういう方々は率先して帰るのも早い。仕事を切り上げるのが早いし、何より効率をすごく考えるようになったというのを聞いて僕はすごくうれしかった。特にだらだら会議しても仕方ないから、2時間で終わるようにする。最近だったらラインやフェイスブック、携帯でチャット感覚で会議をしてそれが全部議事録になった。そういう効率も求めるようになったし、そういう面で子育てする父親がいっぱい増えて欲しいなと思っている。それを丸亀市と一緒にやっていけるところがあるのならばぜひ一緒にやっていきたい。そういう思いで今日参加させていただいた。
岡本会長	商工会議所の中で、塚本委員の言ったような育メンとして活動している若い企業家、子育てをしているお父さんの年代はあまりメンバーにはいないのか。

真鍋副会長	<p>青年部のメンバーが近い。以前、厚労省の委託事業として労働基準協会が受託していたワーク・ライフ・バランス検証委員会に参加していたが、その中でモデル企業を選定し、アドバイザーである社労士のアドバイスをうけ、ワーク・ライフ・バランスに係る目標設定をしたうえで、これに取り組む事案があった。そのモデル企業は若者が多く、まずは相当多かった時間外労働を仕事の効率化で減少させることに取り組み、成果を得た。しかし皆帰ろうとしない。特に若い人はなぜ帰らないか調べたら、これまで帰れない生活だったから時間ができて何をしていいかわからない。未婚の若者が多く、交際する相手もない。アドバイスしていく中で、それなら婚活に力を入れようということになった。家庭ができれば帰れる。中々結婚する人が少ない会社がそれを見直した。そういうこともある。</p>
十河委員	<p>長年PTAに役員として入ると、色々とあて職があり、部会に入らないといけない。母親部会、母親代表、交通安全母の会。何で母の会なのかといつも思っている。男の人にも来てくださいというけど、大体一部屋に僕一人だけ。婦人会はあっても男の人の会はないのかなと思う。愛育班も男性はほとんどいない。高松にはおやじの会があつていいなと思うけど、つくろうよと呼びかけてもなかなか響かない。やろうと言っても何人か集まらなると盛り上がらないし、いつもやろうと盛り上がっては誰もついてこないでやめるという状況。育メンの会があつたらもっと大きくして、こういう審議会に出てこれるくらいの会になればいいと思う。そういう団体などに審議会からこういうのはどうなのといったアプローチはできないか。</p>
岡本会長	PTAの中で何かしようという広がりにはならないのか。
十河委員	ええ。
岡本会長	一人で男女共同参画をPTAで取り組もうというのは大変です。
十河委員	<p>PTAも役員のメンバーは女性の方が多いが、会長は男性が多い。その背景には女の人だとなめられて男の人が言うことをとめられないとか、まとめられないということが現実にあるのでときいている。会長はできたら男の人がいいと言われていいる。いつも男女共同参画なのだと思うけど、いざ実際色んなことに直面したら何も手立てがないので、この審議会が武器になって切り込んでいけたらと思う。</p>
塚本委員	<p>その辺の話に関係してくるけれども、本当にNPO団体は丸亀市に多いと思う。この団体とこの事業は関連性があるという紐付けをしていただけたら、そこもうちよっと新しいものを描けていけるのではないかと考えている。団体があるところとこの事業は関連性があるという紐付けをしていただけるのであればうれしい。事業も色々あるので、難しいかもしれないけど、そういうのがあればスムーズに話も出来たり、丸亀市全体ももう少しよくなっていくのではないかとと思う。</p>
岡本会長	<p>丸亀市が事業をしていく中で弱いところの1つが協働です。丸亀市も十何年前から取り組んでいるけれども、弱い。その原因のひとつが行政主導ですとどうしてもひっついていけないNPOもあつたり、団体というとボランティア等、昔からある市民団体のようなところと組むのが楽なので、新しく出来たNPO法人のような所とは中々接点がない。そういうところを繋ぐところが、協働からではなく、男女共同参画の方からワーク・ライフ・バランスに繋がるような形の事業が出来ないか。だから何かできないのかという人がいっぱいいて99%の中小企業の皆さんの意識改革が大事だということも、活動の中で分かっているけれども、何かうまくいかないというのをどこかで繋いで、市役所主導でなくても商工会議所主導でもいいし、NPOの力でもいいし、それをモデルケースとして男女共同参画という視点で、ワーク・ライフ・バランスすることが子育てだったり、介護だったり仕事だったり全てのことを包括していく。男女共同参画って特異な人がしているイメージではなくて、普通に生活している人たちの日々の生活に関係があることなんだとわかるような形に。特に産業振興課や教育委員会など進んでいないところにNPOと一緒にやれるような形で審議会からのアイデアとして伝えていってもらえたら、育メンの方やPTAの方や同じような年代のお父さんが子育てに関われる。続けてやっているとマンネリ化するので、違う人とやればまた違うことができる。そういうようなことを商工会議所とかと繋がっていったらまた違う形になる。課同士で子育ての担当と商工会議所の担当とが一緒になってやっていけたら、その中から急に婚活の話も出るかもしれない。そういう新たな事業展開に結びつけるような形でこの事業を見直していったら違う形の取り組みになっていく。それをただ役所の中で待っているだけではなくて、市民やNPOを巻き込んだ形での事業展開ができていくと一層外に向いて広がる。そういう新しい取り組みをしたらPRしなくてもメディアが報道する。同居率や独居老人の割合など国勢調査を元に丸亀市がどのような市なのかを把握し、そこからどうすれば私たちのまちの共同参画が進んでいくか、そういう視点を盛り込んだ26年度の計画が出てくることを期待する。</p>

宮本委員 母子愛育会では、「母子」とあるから男性のお父さんが入って来られないので、一部の地域で「母子」を除けた地域もある。お父さんに参加してもらいたいが、中々全部の団体に話を持っていくのが出来ていない。何かがある時にはお父さんが出てきて手伝ってもらえるけど。

日高委員 また愛育会の中で今日の話をしていただけたらよいと思う。

宮本委員 はい。

大西委員 私は子どもを3人育てているが、子どもが高校時代に生徒会長を女性がやる学年が大変増えていて、女の子がトップに立っているという学校生活を見ていると、小さいうちから教育をしてやることがすごく大事な事ではないかなと思う。今度アンケートをとるのは、対象は大人だけかもしれないが、ぜひ子どもたちの意識も聞いて、子どもの意識が高いのであればそれをそのまま保てるような社会につなげていけるようにしてほしい。子どもたちは頭も柔らかくて価値観も柔軟だと思う。わが子と話していても、割とこの子たちはジェンダーにとらわれていない、そのまま子どもたちが出ていける社会になればと思っている。

岡本会長 PTAの役員は女性が多いのに会長は男性というのは、学校の先生もそう思っているし、親たちもそういう感覚が残っているのかもしれない。しかし、丸高が甲子園に行った時に応援団長が女性で生徒会の会長が女性だったので、こういう時代がきたんだと思った。子どもたちの方が柔軟な考え方があるだろうと思われる。そこには男女の区分けをしない教育が役に立っているんだろうと思う。そういうことがもう少し進むように、大人たちがもう少し変わっていけるようにこのプランを進めないといけな。その他に意見等はないか。

事務局（白川） まず、先ほどの矢印の件だが、矢印はこのまま使っていいか。もう一つは、今後のスケジュールについて。次回は25年度の実績と26年度の計画を報告する。その時に前回アンケートの内容と結果を配布する。

岡本会長 矢印1つめと全く同じことをやっているんだったらそれでもいい。極力新しい視点を入れて、もう一度考え直して、矢印でない新たな取り組みができるのだったらその課だけではない形をまず考えてほしい。矢印でない施策を。

事務局（白川） 新規で多少出てくる部分を見て、着手して欲しいということで伝える。

岡本会長 新しい事業も残り3年しかないからどんどんやらしてもらわないといけな。ずっと継続してやっているものも去年とは違う新たな視点で、丸亀に本当に必要なものは何かを考え直して、毎年真っ白な気持ちで初めて担当した気持ちで事業を考えて欲しい。同じ人が担当するにしてもそういう気持ちでやっていけば、矢印でない丸印になると思う。10ページ増えても、20ページ増えても一生懸命推進していただければ、私たちはこれを一生懸命みていくので、丸亀市が一生懸命推進しているという気持ちが伝わるほうがありがたい。それでいいか。

事務局（白川） はい。

岡本会長 次回は前回のアンケートの報告を見せていただけるのか。それを元に26年度にアンケートを実施しないといけなので、案も出してくれるのか。

事務局（白川） 案自体は先になるかもしれないが、前回の資料を先に配布したいと思う。

岡本会長 今回の議事録を送るときに、皆さんに早いうちにアンケートを送付してほしい。

事務局（白川） 了解した。

岡本会長 早めにいただければ、事前に目を通すことが出来るのでよろしく願います。それでは以上で第2回の会を閉会する。

— 閉会 午後9時05分 —